

**製品名: ULK1 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe86730**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:100-1:200
分子量	Calculated MW:113 kDa; Observed MW:130 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ULK1
別名	ATG1; ATG1A; UNC51; hATG1; Unc51.1
遺伝子 ID	8408
SwissProt ID	O75385
免疫原	ヒト ULK1 の合成ペプチド

**背景**

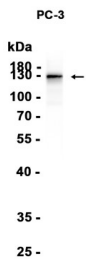
飢餓に反応してオートファジーに関与するセリン/スレオニンタンパク質キナーゼ。ホスファチジルイノシトール 3 キナーゼ PIK3C3

の上流に作用し、オートファゴソームの前駆物質であるオートファゴフォアの形成を制御する。オートファジーの制御フィードバックループの一部であり、RPTORとの相互作用を介して、哺乳類ラパマイシン標的タンパク質複合体 1 (mTORC1) の下流エフェクターおよび負の調節因子として機能する。AMPK によるリン酸化を介して活性化され、AMPK サブユニット PRKAA1、PRKAB2、および PRKAG1 のリン酸化を媒介することで AMPK の調節因子としても機能し、AMPK 活性を負に制御する。ATG13/KIAA0652 および RPTOR をリン酸化する可能性はあるが、そのようなデータには追加のエビデンスが必要である。神経分化の初期段階で役割を果たし、顆粒細胞の軸索形成に必要である。

## 研究分野

-

## 画像データ



ULK1 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した PC-3 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。